平成２９年度

関市総合教育会議

会議録

（平成２９年１２月２２日）

関　市

平成２９年度関市総合教育会議

１　日　時

開会　平成２９年１２月２２日（水）午後　３時
閉会　平成２９年１２月２２日（水）午後　４時１０分

２　場　所

関市役所　３階　庁議室

３　構成員で出席した者

市　　長	尾　関　健　治
教育委員長	足　立　司　郎
教育委員（職務代理者）	井　藤　さやか
教育委員	田　中　　彰
教育委員	奥　村　陽　子
教育長	吉　田　康　雄

４　説明のために出席した者

教育委員会事務局長	渡　辺　数　忠
教育総務課長（会議録書記）	水　野　一　生
学校教育課長	森　　正　昭
まなびセンター所長	清　水　茂　樹
学校教育課主幹	古　田　　斉

５　出席した事務局職員

教育総務課課長補佐	村　瀬　泰　昭

６　協議事項

（１）関市学校教育夢プランについて
　・夢プランの概要
　・プログラミング教育
（２）その他

議事内容（概要）

○渡辺教育委員会事務局長

ただ今から、関市総合教育会議を開催いたします。
はじめに、尾関市長からご挨拶をお願いいたします。

○尾関市長

皆様、こんにちは。

総合教育会議にお集まりいただき、ありがとうございます。
関市全体としましては、今年度が第４次総合計画の最終年度でございます。来年度からは第５次総合計画の初年度ということになります。
関市としては大きな節目の年が来年度になるわけですが、それに合わせて、皆さんご承知のとおり、教育委員会、市長部局の組織全体を再編します。現在の教育委員会の生涯学習課、文化課、スポーツ推進課の３課につきましては、組織上は市長部局の中に入って、市民の皆様と協働という意味で協働推進部の中に入ります。ただし、あたりまえの話ですが、小中学校、高校も含めて教育委員会と市長部局は、連携が深く関わっていますので、その点ではこれまでと変わらずに、もしくはこれまで以上に繋がりを深めていかなければならないと思っております。組織上は変わるということでご理解いただければと思います。
今日の議題のプログラミング教育については、国の方でも進めていかれるということですが、関市としてもぜひ積極的に取り組んでいきたいと思っております。
これまで、教育委員会では、中学校のリーダー研修、海外派遣、英語スピーチコンテスト、数学理科コンテストなどの新規事業も含めて、中学生向けにはいろんな取り組みをしていただいておりまして、来年度は小学生向けに新しく算数理科コンテストをやっていただけるということを聞いております。
また、今年度から元中日ドラゴンズの選手を中心にスポーツ少年団の野球を各団回ってもらいましたが、非常に子ども達も喜んでおりますし、保護者からもよかったと評価いただいていますので、来年度も続けていきたいと思っています。さらに、ＦＣ岐阜の選手にも来ていただいて、スポーツ少年団のサッカーを回ってもらうなど、小学生と交流できる機会を多く作っていきたいと思っております。
限られた時間ではございますが、教育委員会の皆様との貴重な意見交換の場ですので、お互い有意義な時間になることを願って、私からの挨拶に代えさせていただきます。

○渡辺教育委員会事務局長
ありがとうございました。続きまして、足立教育委員会委員長からご挨拶をいただきたいと思います。

○足立教育委員長
教育委員会を代表いたしまして、ご挨拶申し上げます。
今年度第一回の総合教育会議ということで、市長さんにはお忙しい中、協議できる場を設けていただきまして誠にありがとうございます。
昨年度の総合教育会議では、関市の特色である相談体制として実施しているマイサポーター制度とコミュニティースクールについての協議をさせていただきました。今日は、学校教育夢プランについて、中でも特にプログラミング教育が議題と聞いております。ＩＴ関係の人材が２０２０年には３７万人ほど不足すると予測されています。ま

た２０２０年度から学習指導要領が改定されてプログラミング教育が小学校でも必修化されるということです。いろんなところでも研究が進められていますが、論理的思考力を高めていくことが大きな目的になっているようです。グローバル化と言われておりますが、競争力を高めるための質の高い人材を育てるためには、関市の教育をどうしていけばいいのかを研究していく必要があると思っております。

今日の総合教育会議が有意義な場となりますように祈念しております。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

○渡辺教育委員会事務局長

ありがとうございました。それではお手元の次第の４番に移らせていただきます。この協議事項の進行につきましては、関市総合教育会議設置要綱第４条第１項の規定によりまして、市長に議長をお願いするということになっておりますので、進行につきまして尾関市長さんにお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○尾関市長

それでは、次第に従いまして、協議事項に移らせていただきます。まず（１）の学校教育夢プランについて、森学校教育課長から説明をお願いします。

○森学校教育課長

平成２９年度版の関市学校教育夢プランについて、今まで継続してやっているもの、今年から実施しているもの、来年度に向けてというものを簡単にお話した後、プログラミング教育については、まなびセンター所長から詳しく説明してもらいます。

最初に６つの枠があります。安全、安心な環境及び教職員の資質向上までは、今までやってきているものです。キャリア教育では夢教室、今年も安桜小学校、南ヶ丘小学校、旭ヶ丘中学校に日本サッカー協会からプロスポーツ選手、野球・ハンドボール・バスケットボールを専門的にやってきた先生が夢先生としてやっていただく授業があります。

それから、右の方のふるさと教育については例年通りやっているものです。小学校１年生から６年生がバスを借りて、水源地や処理場、５年生では鵜飼、６年生では古式日本刀鍛錬見学をします。

今年から、中学生向けの英語版関市紹介のガイドブックを作成して、今年は中２と中３に配布しました。来年度からは中２を中心に配布します。次世代リーダーの養成ということでは、中学生リーダー養成研修が４回目、中学生海外研修が５回目ということで、昨年はシンガポールに１２名、個人負担５万円で８日間行かせていただきました。来年度もこのような流れでいこうと思っております。

一番右上の安全、安心ということで、マイサポーター制度ですが、これは昨年度協議させていただきました。健全育成手帳も継続しています。昨日新聞に載りましたが、小金田中学校が岐阜県教育表彰されて、これは西

部地区の活動を中心にということで、地域が発端で健全育成手帳がスタートして関市全体に広がったというものです。それからスマホ安全宣言。

また、今年の８月終わりから不登校対策でふれあい教室をまなびセンターへ移しました。その結果、以前は６人くらいしか来ていなかったのですが、今、登録は１２名となりました。年間、関市には３０日以上欠席するものが７０から８０名いますが、その中で一人でもふれあい教室へ来て、先生方やいろんな方とふれあうことができるといいなと思っています。良い事例としては、さらにそこから学校の先生や校長先生が来てくれたりすると、学校に行けるようになった子もいまして、毎日ふれあい教室に来ていた子が１２月から１日だけ行って、後の４日は学校に行けるようになりました。そういう足がかりになる場所になるといいなと思っています。

先日の議会で、地域の安全ということで、安全支援者の増員のお願いがあって、ここには書いてないですが、来年度に向けて校区に一人ずつ安全支援者が増やせないかなと思っています。それから学校の先生方や保護者対応を含めてスクールロイヤーといった弁護士と契約をして、来年度やっていけないかと思っています。予定では、二人の弁護士に年間で契約をして、相談することができないかなと思っております。

それから、右の一番下ですが、教職員の資質向上ということで、今年から実施している教職員のマイサポーター制度です。教職員が気軽に相談できるもので、１１月に募集をかけたら、５７１名の教員に対し、今、登録が２４６名で、４３．１％の先生方がだれかを相談相手にしているということです。校内じゃない外部の先生に相談するとしているのは２８名で、そういった相談体制も充実してくればいいなと思っております。

最後になりますが、左下の学力向上ですが、来年度、小学校の算数理科コンテストがあります。それから特に手厚くしていただいているのが特別支援教育のアシスタント、わかあゆ講師、心の相談員で、来年度も特別支援教育アシスタントは、小学校で６２名、中学校で８名、わかあゆ講師は小学校で２４名、中学校にも１名配置し、増員していきたいと思っております。

もう一つは通級教室、言語とＬＤの通級があるのですが、ＬＤは新設要望してもなかなか通らないというのが現実で、去年も３校新設要望したのですが、通らないので今年も要望します。安桜小、田原小、桜ヶ丘中が要望しますが、通らなかったら市でわかあゆ講師を配置して、市費で通級をやれないかなと思っております。一番下のＩＣＴ教育について、次の学習指導要領でプログラミング教育が小学校で入ります。それに向けて、来年度タブレットを各校最低６台になるように導入し、一クラスで班ごとに使えないかなと思っています。そして、この後説明してもらいますが、ロボット教材をまなびセンターに置いて貸し出しをし、これを使ってプログラミング教育の学習ができないかなと思っています。詳しくはまなびセンター所長からお願いします。

○清水まなびセンター所長

よろしくお願いします。

今年、藤井四段が２９連勝と大変話題になりました。藤井四段は、古典的な詰将棋で終盤非常に強かったのですが、序盤や中盤はどうしても弱いという弱点がありました。それを克服するために人工知能の将棋を何局も何局もして、人工知能と対戦することによって中盤や序盤から攻められるようになり、それから連勝が続いた。それが藤井四段の強さの秘密だと聞きました。そのくらい１４歳でもＡＩを使いこなせていると思います。

今言われているのが、第四次産業革命、これはＡＩの時代がやってくるということです。今話題になっている、車の自動運転、声に反応してロボット等が動くというのが段々身近になってきました。２０３０年には今ある仕事の半数が自動化されると言われております。子ども達が将来どんな仕事に就くのかというのは先が非常に読みにくい社会になってきているということです。しかし、いくらＡＩが発達しても、ＡＩに命令を与えたり、目的を持たせるのは人間にしかできない事です。劇的に変化する社会に備えて、必要な資質や能力を育むために、学校教育においてコンピューターの技術の原理や思考方法を学ぶ必要があります。

技術の原理というのは、コンピューターの仕組みを勉強するのではありません。思考方法、どのような手順でコンピューターが動いているのかというのを学ぶというような意味です。総務省、経済産業省が先行して取り組んできたのですが、文部科学省も２０２０年から小学校でプログラミング教育を必修化するということになりました。プログラミング教育は勘違いをされて、プログラミングの言語を覚える事だと思われるのですが、プログラミングの言語は数年経てばすぐに新しいのができます。私が何年か前、学校でベイシックのプログラミングを教えたことがあるのですが、今はもう化石のようなものになっています。言語を覚えるのではなく、情報技術の手段として活用するための論理的思考力、ちょっと難しいですが、それをプログラミング的思考といいますが、これを学ぶということです。

プログラミング的思考というのは、将来どんな職業についても時代を超えて普遍的に求められる力といわれています。もう少し具体的にいうと、組合せをどのように改善していけばより意図した活動に近づくのかを論理的に考えることを体験しながら育むといわれています。難しいので簡単に言うと、例えばロボットをこうしたいという目的に合うように、いろいろ手順を考えて工夫しながら目的に近づけるという体験をすることをプログラミング的思考といいます。ところが、小学校のプログラミング教育については、まだどの教科で、どの学年で、どんな教材を使いなさい、何時間やりなさいという指示がでておりません。まだどこも手探り状態で、いろんな情報を求めているということです。例示としてあげられているのは、５年生の算数の平面図形で作図にプログラミング教育が使えないかとか、６年生の理科の物質とエネルギーの電気のところでプログラミング教育が使えないかというのが示されています。

関市ではこの４月から、研究委員会情報部会でいろいろ検討、研究調査をしてきました。今のところの方向は、１年生から６年生まで各学年３時間程度が適当ではないかと考えています。これ以上多くの時間を確保するのは非常に難しいということ、どの教科でやるのかもはっきりしていない

ということ、他の先進的に進めてみえるところ等の情報も集めた上で、３時間が適当でないかということです。また、発達段階に応じた教材を使うこと、例えば、いきなり低学年にロボットを使えといっても難しいので、段階に応じて使うということと、一番時間を確保しやすいのは総合的な学習の時間ではないかということも検討してきました。

実際、考えている指導計画ですが、「１、２年生は簡単な絵を動かしてみよう」、「３、４年生は目的に合わせて絵を動かしてみよう」です。

（パソコンのサンプル画面を見せながら）

これは、「プログラミン」という教材がありまして、文部科学省が出しているものです。インターネットで接続して使えるもので、無料の教材なので費用はかかりません。登録すれば簡単にできます。これがいいのではないかということで、具体的に紹介させていただきます。例えば、これはペンギンがサッカーボールをリフティングするというプログラムで子どもの作品ですが、ブロックみたいなのがあって、順番に積み重ねていきます。これで、願う動きを作り出します。例えばサッカーボールが上に行くと大きくなるのがわかりますか。イモムシがでてきて魚に食べられるというようなもので、うまい、腹へった、もっとくれ、といった字も入れられるようになっています。これは簡単に出来ていますが、イモムシが途中で落ちてくるのを止めるとか、ぴったり合わせるという調整も難しいのでそれがプログラミング的思考と言われるものです。非常にレベルの高い子どもの作品では、シューティングゲームで、当たったら爆発するようなプログラムを組んであり、パソコンキーで上がったり下がったりというのも設定して出来るというものです。これがプログラミンというソフトで、１年生から４年生までこれを使うといいのかなと考えております。

５年生は、絵を描いたり動かすことで例示にもあった算数の図形を描いてみようという「スクラッチ」というソフトで、無料のソフトです。ここを見ていただければわかりますが、「何度回転させる」、「何歩動かす」、「５回繰り返す」といったプログラムで、四角形や三角形、角度を変えるといろいろ出来るというのを学べ、内角外角を変えれば図形を描けることが学べます。このように図形を描くことから、子どもはさらに考えまして、少しずつ三角形から四角形、五角形と、角度を変えて動かしていくというのも子どもが作った作品です。南ヶ丘小学校の児童の作品ですが授業で取り組んだものです。また、これは四角形を描いていますが、色を変えながらずらしながら動いていくように作りました。これも南ヶ丘小学校の作品ですが、５年生で算数とリンクしてやれるものです。

６年生になると、物を動かしたほうが興味関心を持ちますし、ロボットを動かしながら目的に達するということで、ロボットを動かしてみようということになります。

（実物のロボットサンプルを見せながら）

このように、タブレットで動かすというもので、ＮＴＴのエムボットという段ボールロボットです。元は熊の形でしたが、「はもみん」に作り替えました。昨日、南ヶ丘小学校の子にやってもらったら、「かわいい」と喜んでやってはいましたが、これも同じようにコンピュータプログラムで指示

を出していくというものです。もう少し条件を付けたり、やろうと思えばいくらでも複雑にできますが、３時間でやるにはそれ程難しいところまではできません。

（ロボットサンプルの映像を見せながら）

次はアーティックロボの「信号機」です。これは押ボタン、ブザーが付いていて、青と赤の歩行者信号の例ですが、赤が付いている状態で押ボタンを押すと青に変わって音響が出て、点滅してまた赤に変わると。何回も押せば同じことを繰り返す。これも条件として押ボタンを押したら赤が青に変わりますよとか、何秒間青が付きますよとか音の設定とかいろんなことを考えながら目的にあったプログラムを作るといったものです。

３つ目は「ロボットカー」です。目的が電車の駅から家まで帰るように車を動かすもので、何秒進んで何度曲がってとかを計算しながら動かします。

今この三つを教材の候補にあげています。金額は信号機とロボットカーに比べ、はもみんのロボットが半額くらいの値段です。子ども達はどれも楽しく喜んでやりますが、貸し出しをする時に、はもみんのロボットは壊れてしまう心配があります。女の子は信号機を喜びます。男の子は車を喜ぶようです。

今後の予定は、今、南ヶ丘小学校がＩＣＴの調査研究校として子どもに使ってもらっている状況です。１月の研究委員会で、もう一度教材を検討し、年間の指導計画を作成するという予定です。それから、各学校１名ずつが集まる情報主任会の１月開催では､プログラミング教育の研修を行い、研究委員のメンバーが講師となり研修を行う予定をしております。来年度はロボット教材をまなびセンターで各学校に貸し出しをして使っていただきます。３時間なら順番に貸し出しても出来るのではないかと考えております。夏の資質向上研修、情報主任会で教職員向けの研修を行います。また小学校向けの授業ということで、夏休みに小学生向けのプログラミング教室を開催します。今、学習塾でもプログラミング教室が盛んにやられていますので、市でも学校に導入する予定のロボットを使う教室が開ければいいなと計画しております。以上でございます。

○尾関市長

ありがとうございました。説明が終わりましたので、学校教育のプログラミング教育についてご意見等ございますか。

○吉田教育長

具体的なプログラミングの公式とか文字とかはないのですか。

○清水まなびセンター所長

あらかじめ用意されたものから必要なものを動かして並べるだけです。

○吉田教育長

これを作れるようになればいいのですね。高学年ぐらいになると一部の

小学生はやるのですか。

○森学校教育課長

全体でやるのは、何をするとどういう動きができるか、順番にいけるようにという思考です。

○吉田教育長

中学生のプログラミング教育となると、もう少し進むのですか。

○清水まなびセンター所長

制御プログラムが入ってきます。例えば音に反応するとか、光センサーを入れるとか、車がそういうので動くようになるというものです。

（パソコンのサンプル画面を見せながら）

これもそうなのですが､動作を命令する言語がいろいろ用意されていて、命令を組み合わせていくだけです。どのソフトも同じようなパターンなので、一度覚えるとすぐ慣れます。

○足立教育委員長

どれを持ってくるかによって、おもしろさが出てくるのですね。

○清水まなびセンター所長

そうですが、ただ持ってくるだけではなくて、角度を何度にするとか、何秒とか、そういうのも考えて入れなければならないというものです。

○足立教育委員長

先ほどのイモムシが魚を捕えるときのタイミングも、狂ってきますね。

○清水まなびセンター所長

はい。石に当たった時に、魚に化けるというタイミングが、途中で魚に化けたらおかしいので、そこの長さを計算してやるということです。

○森学校教育課長

無料のソフトはたくさんあるのですか。

○清水まなびセンター所長

よく使われているものの中で検討した結果、文科省から出ているプログラミンが一番使いやすいのではないかと思います。そして、これをやるためにはタブレットがセットで必要であり、教室で、グループで相談しながら動かしてみるという学習になります。

○田中教育委員

最近の子どもは、我々の時と違って、小さい頃からコンピューターに慣れていると思いますが、実際のプログラミング的思考となると、小学１年

生、２年生には早いのではないかと感じますがどうでしょうか。

○清水まなびセンター所長

１年生でいいますと､例えばペンギンやサッカーボールの図があります。それを選んで持ってきて、右や上へ動かす程度になります。最初はパソコンの電源の入れ方からやらないといけないのですが、そのくらいのことは１年生でもやっていけると思います。自分で絵を描いたりするのは３、４年生になると簡単に出来るようになると思います。

○奥村教育委員

自分の時の時代に比べ、どんどんと新しいものが導入されてきていますが、パソコンが学校に導入された時のお絵かきソフトなど、情報教育、情報活用能力の発展的なものがプログラミング教育と捉えたらいいのでしょうか。

○清水まなびセンター所長

今までのお絵かきソフトのように、絵を描いたりとか、ワープロソフトとかプレゼンテーションソフトとかは、ソフトを扱うもので、これはプログラムを作り出していくというところが違います。

○奥村教育委員

その基礎となるのが、今までの情報教育で、コンピューター活用能力を使って、プログラミング教育を進めるということですか。

○清水まなびセンター所長

これをやりながら、そういう力がついていくと思います。

○奥村教育委員

今までの教育と重なるところが出てきたりはしますか。

○清水まなびセンター所長

プログラミング教育としては３時間ですが、文字を打ったりする情報教育と一緒にやっていくことになると思います。情報教育では、高学年になると、ワープロで文字を打つとか、プレゼンテーションとか、インターネットで調べ学習をするとかを実施しますが、そういうことは並行してやっていくものになると思います。

○奥村教育委員

今までの指導計画にさらにこれを入れていくということですね。

○清水まなびセンター所長

はい。情報モラルとかも入れていくということです。

〇奥村教育委員

電子黒板とはどういう関係ですか。プログラミング教育をするのに電子黒板を使っているところもあるようですが。

〇清水まなびセンター所長

電子黒板、デジタル教科書を拡大したり、タブレットの画面を表示したりするものなので、プログラミングをするには電子黒板がなくても、タブレットとかパソコンからも繋いですることもできますので、電子黒板が必要なわけではありません。

〇奥村教育委員

電子黒板は廃れていくということですか。

〇清水まなびセンター所長

そうではないです。電子黒板とタブレットはセットで使います。

〇森学校教育課長

電子黒板はデジタル教科書を使って、教科授業で使う事が多く、必要なものです。

〇奥村教育委員

プログラミング教育は自分の力を活用して、想像していくと捉えていいのでしょうか。

〇森学校教育課長

思考を積み上げていく、順番に動かしていくというのが思考力をつけるということです。いきなりではなく、それを簡単に取り出せばできるというように、自分で考えなくても選べば次にどんな動きというように使っていく。その思考を積み上げていくことで、他の事においての思考力の基礎になるのでしょう。教科ではないので、新たに教科が生まれるわけではなく、総合とかの時間に入れて、思考の訓練をしていくことになります。

〇井藤教育委員

このロボットを動かすために、先程のようにいろんな項目を自分で考えて、いろんなことをするのが目的ですか。

〇森学校教育課長

それで思考力をつけていくということです。

〇清水まなびセンター所長

ただ、無茶苦茶に動かせばいいのではなくて、信号機ロボットについては、歩行者用の信号機を作りましょうという目的に合わせて何秒点灯するとか、押したら点滅するとかを考え、車のロボットについては、家から駅

に向かわせる目的地に合わせて考え、プログラムを組んでいくという思考力です。

○吉田教育長

ＩＴ教育では、調べ学習など、情報機器を使って答えを見出していくことでしたが、プログラミング学習は、答えが一つではなく、Ａさんはこういうふうに動く、Ｂさんはこういうふうに動くというように、答えがないのだと思います。こうしなければいけないのではなく、プログラミングを使って積み上げていき、ある子はこう考えるという思考力を育むことだと思います。ジグソーパズルの完成品とレゴの完成品は一人一人違いますよね。これからいろんな答えがある中で、価値観の違うなかで、日本国民は生きていかなければならない。だからいろんな答えが探せるような子どもを、市民を、人材を作っていきたいというのが狙いで、それを小学校１年生からやるということだと思います。

○清水まなびセンター所長

今まではソフトを使える人間を育ててきたのですが、今度はソフトを作り出せるような人材を育てていくということです。

○吉田教育長

先進国はどうなのですか。

○清水まなびセンター所長

イギリスは先進的にやっています。日本はそれに遅れないようにということです。

○足立教育委員長

各学年３時間で、総合的な学習の時間を使ってということですが、２０２０年に必修化になった場合も３時間でいいのですか。

○清水まなびセンター所長

何時間という指示もまだないですし、教科ではないです。今あるどこかの教科でやりなさいということです。先ほどお話したように、５年生は算数の教科の中でやることも可能ですし、６年生は理科の教科の中でやることも可能です。必ずしも総合的な学習の時間で全部やらなくてもいいことになります。

○足立教育委員長

何時間という制限があるわけでなくて、１０時間でも１５時間でもいいわけですか。

○清水まなびセンター所長

はい。ただそれだけの多い時間を確保するのは難しいと思います。

〇奥村教育委員

実際に学校で取り入れてやっていく場合には、指導者となる人が現在はいないわけですよね。支援とかサポーターとかそういう方を望みたいと思いますがどうでしょうか。

〇清水まなびセンター所長

一番の課題は、教員ができるかというところです。やはり、子どもの方が早く進むと思いますので、教員がついていくのが大変だと思います。なので、教員の研修に特に力を入れていく必要があります。

〇奥村教育委員

プラスしてどこかの支援はないのでしょうか。例えば、岐阜市ではタブレットを１人１台ずつ持ち、ベネッセから指導者が来てやっていると聞いたのですが。あくまで教員の力でやりきりなさいということでしょうか。

〇清水まなびセンター所長

まずは、教員の研修からスタートするということで考えています。

〇奥村教育委員

３時間のために３０時間以上の研修が必要だと思いますけれど、いま働き方改革が言われているときに、何かを削らないと入らないと思うのです。専門家にまかせることもいいのではないかと思います。高校生とか大学生でもいいので、専門家が来ると先生は助かりますね。

〇尾関市長

私もそのあたりが一番気になっているところで、タブレットも子どもたちの方が詳しいというか、全然違和感なくやりますので、先生方の負担増も考慮すると、外の力を使ったほうがスムーズにいくのではないかとも思います。せっかくお金を使ってタブレットを導入するので、効果を出すためには、外の力を使ったほうがいいと思います。どういった方法がよいのかを一度検討していただいて、必要であればそれは予算付けを要望してください。

〇吉田教育長

プログラミング教育の他に、外国語、英語力の強化がありますね。これも週３時間程度ということで入っています。正式には３２年度からですが、関市では、来年度から英語を年間５０時間とすることを試験的にやります。これはもうどこの市町村もやっていますので、多い所では７５時間やっています。ただ、ＡＥＴを増員するとなると、それだけ、お金も増えてきます。また、国際化、ＩＴ教育推進をする上で、まず教員が外国語やプログラミング的思考を勉強するということが、必要だということです。国全体としては、まず、教員がやるという方針のようです。

○尾関市長

新しいことを導入する際は、教員が大変だと思うので、外部講師の力を入れて、サポートしながら徐々に自立するという考えの方がスムーズにいくのではないかと思うので、そこにはお金を掛けるべきだと思っております。

○田中教育委員

年間３時間なら、うまく組めばそんなに人はいらないかもしれないですね。

○尾関市長

タブレットは班に一台でいいのですか。

○森学校教育課長

多いほうがよいですが、一度に入れてもタブレット自体が３，４年で新しく変わっていくので、今年だけで一度に入れるよりは、年々、計画的に入れていってもらった方が更新していけます。

○吉田教育長

リースはあるのですか。

○森学校教育課長

リースでも安くはならないので、今のところ考えていません。来年度、タブレットを５１台導入する計画で、約１，３００万円を予定しています。タブレットだけであれば、３、４万円ですが、ソフトウェアやセキュリティー対策ソフトを入れることで１台２０万円くらいになります。

○清水まなびセンター所長

授業で使うソフトが７、８万円します。

○尾関市長

タブレットで何ができるのですか。

○清水まなびセンター所長

例えば、動画のソフトがあれば、体育の時間を撮った映像を、追っかけ再生し、自分がやったのを戻ってきて見るとか、二つならべて再生するとかで、授業に役立てることができます。

○森学校教育課長

無料のソフトはないのですか。

〇尾関市長

タブレットのみを安く買い、無料のアプリを使って、一クラス分４０台を揃えた方がいいのではないですか。

〇清水まなびセンター所長

もう一つ問題になっているのが、タブレットとセットで電子黒板とかがないと使えないことです。今、各学校には電子黒板が６台しかないため、一緒に使うには、タブレット６台ずつがちょうどの数なのです。もっとたくさんのタブレットを入れて使うとなると、岐阜市のように各教室１台ずつ電子黒板が必要です。電子黒板自体が一台５０～６０万円します。

〇尾関市長

関市内の小中学校の教室はいくつあるのですか。各教室に電子黒板を入れたらどうですか。

〇清水まなびセンター所長

それが理想です。そうすれば、デジタル教科書ももっと使ってもらえると思います。今はフロアに１台とかの状態なので、移動して使っています。小規模校はクラスで１台ずつあるので、いつも当たり前のように使えている状態です。

〇水野教育総務課長

小学校が２２１教室です。

〇清水まなびセンター所長

本当の整備計画では、文部科学省は整備してくださいねということなのですが、ほとんど全国的にできていないです。

県内では、岐阜市と各務原市が教室に一台ずつ入っていると聞いています。

〇尾関市長

１年でまとめて入れる方が、単価が安くなると思います。

〇森学校教育課長

電子黒板を入れてからその次タブレットですか。

〇清水まなびセンター所長

順番からいうと、まず電子黒板です。

〇尾関市長

タブレットはまず６台でとりあえず入れて、その後、電子黒板を入れるということですね。

〇清水まなびセンター所長

子どもたちは大喜びだと思います。

〇尾関市長

来年度実施するかですね。

〇清水まなびセンター所長

ホワイトボードの上からプロジェクターで映し出すのもありますし、モニター式と両方あるのですが、値段的には同じです。

〇森学校教育課長

岐阜市は、普通のモニターの上につけて電子黒板化するものです。

〇清水まなびセンター所長

プロジェクターで映し出す方式は、大きくは映せますが、モニター式の電子黒板のほうが鮮明です。

〇尾関市長

ここで、結論は出せませんので、この件についてはよろしいですか。では学校教育夢プランについては終了いたしまして、その他について何かご意見ありましたらお願いします。

〇井藤教育委員

学校教育夢プランとか、素敵なものもいっぱいあるのですが、子どもにすごく詰め込みというイメージがあるので、それも大事ですが、もっと学校に行きたくても行けない子とか、ふれあい教室に通っている子がいたりしますが、数字で子どもを評価するのではなくてもっと心に響く教育というのを望みたいなと思っています。

学校教育夢プランを見ていると、すごくハード的なイメージがあります。そうではなく子どもの心に寄り添うような教育を学校に望んでいいかわからないですが、子どもが一日で過ごす時間は学校の方が多い、学校の友達、先生と過ごす時間が多いので、そこで学べることをいっぱい学んでほしいなと考えています。

今、ポスターを拝見して、関市の自然と伝統ということもすごく大事なので、関市に生まれて、上の子が今度関市に就職するので、うちの子は地域に貢献したいということで就職先を選びました。そういう気持ちを持った子がどんどん増えるような教育を大事にしてほしいなと思っています。

〇田中教育委員

教育長さんを始め、学校教育夢プランでしっかりやっていただいているので、あまり言うことはなく、子どもへの教育はしっかり考えられている

と思います。
　関市の場合、いじめ問題とか大きな表面的な問題になっていないので、引き続きよろしくお願いしたいと思います。あと、先程も出ていましたが、先生の心のケア、先生の時間の使い方が全国的にもいろいろ問題になっていますので、ここには教職員のマイサポーターがありますが、特に部活動について外部の支援とかを活用し、先生方も気持ちの余裕をもって生徒と接することができるようにしていただきたいと思います。

○尾関市長

　他にはよろしいですか。
　ないようでございますので、本日の協議はすべて終了いたします。ありがとうございました。

○渡辺教育委員会事務局長

　大変お忙しい中、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。これをもちまして総合教育会議を閉会させていただきます。

市　　長

委　員　長

委員長職務代理者

教　育　委　員

教　育　委　員

教　育　長

会 議 録 書 記